



第3回グローバル5Gイベントの開催について

第5世代モバイル推進フォーラム事務局 一般社団法人 電波産業会

グローバル5Gイベント (Global 5G Event) は、日本、欧州、米国、中国、韓国の第5世代移動通信システム (5G) に関する5つの推進団体*が締結した覚書 (MoU) に基づき、5Gの早期実現に向けた課題や協力関係の構築のため、専門家が一堂に会し情報交換や意見交換を行うもので、年2回、各国・地域の持ち回りで開催され、覚書の署名団体が共同で運営 (オーガナイザー) を務めることになっている。第1回が2016年5月に中国 (北京) で、第2回が同年11月にイタリア (ローマ) で開催された。第3回が総務省主催により東京で開催されたので、事務局を務めた5GMF (一般社団法人 電波産業会) から開催概要を報告する。

1. はじめに

5Gは、最高伝送速度10Gbps、100万台/km²の接続機器数、1ミリ秒の遅延等において現行無線システムの機能を大幅に向上させていることから、新たなサービスの提供や様々な産業分野での利用が期待されている。国際標準化においては、3GPP (移動通信システムの仕様を検討する団体) やITU-R (国際電気通信連合の無線通信部門) において、5Gの早期実現に向けた活動が活発に行われている。また、各国、各地域では、政府による取組みや5G推進団体による活動が活発になり、5G用周波数の国際協調、5Gのユースケース、5Gを利用する産業界との連携等の議論が行われている。

これらを背景として、5Gに関する情報交換や意見交換の場の重複を避けながら、関心のあるテーマについて議論するため5G推進団体が覚書を締結し、「グローバル5Gイベント」としてワークショップ等を開催することになった。

グローバル5Gイベントの開催にあたり、5G推進団体からメンバーを選出し、TPC (Technical Program Committee) が設置される。TPCでは、ワークショップのプログラムが策定され、全体テーマ、各セッションごとのテーマ、時間割等の検討やモデレータ、発表者等のノミネート等が行われる。

2. 第3回グローバル5Gイベントの開催

2.1 ワークショップ概要

今回のワークショップは、「Creating the Crossover Collaboration for 5G Eco-Society」を全体テーマに各セッションのテーマに従いプレゼンテーションとパネルディスカッションが行われた。海外からの28名の参加者を含め、日本の政府関係者、通信事業者、製造メーカ、大学、研究機関から延べ約700人の専門家が参加した。

また、第1日目のセッション終了後に、5Gイベント開催のために締結したマルチラテラル覚書 (MoU) に、新たに南米のブラジルから「テレブラジルプロジェクト5Gブラジル」が参加することになり署名式が行われた。

(1) 開会式

冒頭にあかま二郎総務副大臣から歓迎の挨拶があり、続いて5GMF会長の吉田進京都大学特任教授・名誉教授からのキーノートスピーチが行われ、5Gの実現に向けた検討が新たな段階を迎えており、環境の変化を捉え、新たなスキームを提案する今回の全体テーマについての説明や本ワークショップへの期待等の表明があった。



■写真1. あかま総務副大臣の挨拶

(2) オープニングセッション

政府関係者と5G推進団体役職者が登壇する2つのオープニングセッションが開催された。第1セッションでは総務

* 日本：第5世代モバイル推進フォーラム (5GMF)、欧州：5Gインフラストラクチャ協会 (5G-IA)、米国：5Gアメリカ (5G Americas)、中国：IMT-2020 (5G) プロモーショングループ (IMT-2020 (5G) PG)、韓国：5Gフォーラム (5G Forum)



省電波部移動通信課の杉野勲課長が、第2セッションでは5GMFの森川博之企画委員長（東京大学）がモデレータを務めた。両セッションでは、政府、推進団体、関係者等との間での情報交換や協調の重要性が指摘され、議論を継続することが確認された。

(3) テーマ別セッション

各セッションのテーマとして、5Gに関する①周波数の国際協調、②導入計画、③実証実験における協調の可能性、④関連業界との協力関係の構築、に加えて、特別セッションとして「5Gにおけるセキュリティ」が開催され、活発な議論が行われた。

5GMFからは、本多美雄技術委員会周波数検討グループリーダー（エリクソンジャパン）、松永彰技術委員長代理（KDDI）、奥村幸彦総合実証試験推進グループリーダー（NTTドコモ）が発表者として登壇した。

また、セッションのまとめとして、中村武宏企画委員会委員長代理（NTTドコモ）がモデレータを務めるラップアップパネルが開催され、5G海外推進団体の代表者に加え三瓶政一技術委員長（大阪大学）、中尾彰宏ネットワーク委員長（東京大学）がパネリストとして登壇した。モデレータにより、建設的な意見の次回5Gイベントへの反映と関連する業界とのより深い情報交換の必要性の提言がまとめられた。

(4) 閉会式

韓国5G Forumから、次回の第4回イベントを2017年11月22日～24日の3日間ソウルにおいて開催することが宣言された。最後に佐藤孝平5GMF事務局長（ARIB）から、総

務省、支援企業並びに関係者への謝辞と次回ソウルでの再会を約束した閉会の挨拶をもって2日間の幕を閉じた。

2.2 5Gに関する展示概要

ワークショップと同時期に東京ビッグサイトで開催されたWireless Technology Park (WTP) 2017内に、本イベントの展示ブースを開設した。ブースでは総務省の5Gに関する取組み、5GMFの活動を紹介した。また、総務省による戦略的情報通信研究開発推進事業の5Gに関する研究開発課題である、5G MiEdgeプロジェクト（無線分野）、5G!Pagodaプロジェクト（ネットワーク分野）の成果を紹介する展示を行った。多数の来訪者があり、熱心に質問する姿が見られた。

2.3 5Gテクニカルツアーの実施

海外からの来訪者28名が参加し、通信事業者の5Gに関する取組みについて、大容量化技術や高精細映像サービスの体験、映像配信の実証実験等を見学し、驚きと楽しさを味わうことができたとのこと好評が寄せられた。

3. おわりに

本イベントでは、各国の専門家間で熱心に意見交換を行う姿が、会議場内で見受けられた。更なる交流の場となりますよう、引き続き、関係各位のご協力とご支援をお願いいたします。



■写真2. ワークショップ会場の様子